

あなたへ

「男の子なんだから泣いちゃダメ」
「女の子はおしとやかにしなさい」
「子どものことは母親に任せたら？」
「女性ならそんなに働かなくてもいいんじゃない？」
そんな言葉や態度に苦しい思いをしたことはありませんか

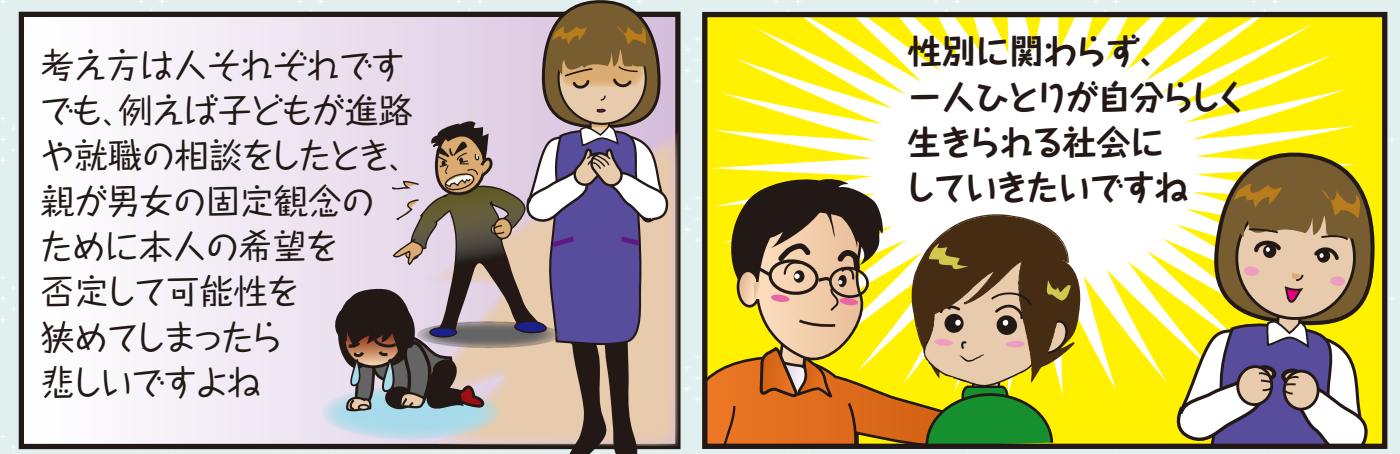
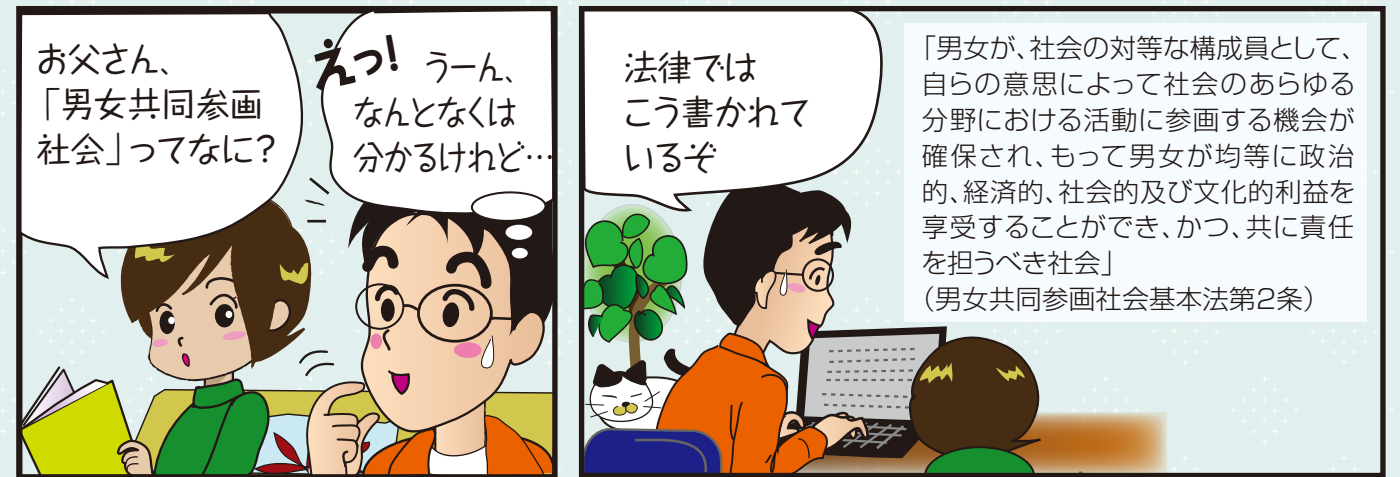
性別に関わらず誰もが自分らしく生きられるように
“男女共同参画”について一緒に考えてみませんか

ちゃんねる
運動

今回の特集の内容は
市政情報等提供番組
「ちゃんねるよっかいち」
地デジ12ch(CTV)でも紹介します。
●3月21日(祝)～31日(日)放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30

男女共同参画センター
「はもりあ四日市」より

男女共同参画社会 ってなんだろう？



自分らしく生きる

母こそ働いて、その姿を子どもに見せてほしい

株式会社Eプレゼンス
代表取締役 **川北 睦子**さん



子育てしながら再び働こうと思ったとき、元々していた設計の仕事は残業時間の多さなどから断念せざるを得ませんでした。一方で、独学で作成していた「お家紹介サイト」が人気になり、Webの可能性に惹かれた私はWebの世界へ。起業当初は自分が企画・営業を行い、在宅のデザイナーなどに外注する形でしたが、5年前に法人化してチーム化しました。子どもに「お帰り」を言えるようにという思いから、スタッフは基本的に在宅で仕事をし、勉強会や打ち合わせのときしか出社しません。社員として在宅で働くという形態はまだ珍しく、自社で実証実験中です。

私は母が働く姿を子どもに見せることこそキャリア教育だと考えています。社会に出ることで地元企業のことを知ったり、子どもと仕事の話をしたりしてほしい。フルタイムでバリバリ働くことがすべてではなく、子育てを優先したいならそれもいい。自分の意思で選べるのが大切です。

今後は、社外へも社員の在宅勤務や業務委託(フリーランス)などの働き方を提案していき、人材不足に悩む企業と母の距離を近づけ、共に地域の子どもを育てる地域社会づくりに貢献できるよう、情報発信していきます。

自分らしく生きるために大切なこと、必要なことは何だと思いますか？



女性起業家4人と市長によるパネルディスカッション



これまでのことが全て今につながっている。今が一番面白い

NPO法人
四日市男女共同参画研究所
代表理事 **坂倉 加代子**さん



私が就職する頃、志望していた新聞記者の道は性別を理由に門戸が閉ざされていました。そこで、働き続けられる仕事として選んだのが公務員です。「この課は何をすることか。この課の主人公は誰か」ということを常に念頭に置き、大らかに構えつつ既存の枠を乗り越えて仕事をしてきました。仕事も家事も育児も「完璧にやらなくて」とは考えず、親戚や友人、近所の人たちにたくさん助けられました。退職後は、もっとやりたいと思ったことや行政ではできないことを実行するため、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちと一緒に緩やかに活動しています。

NPO法人四日市男女共同参画研究所では、女性の困っている声を集め、それをテーマに調査や学習会などを行っています。今までで特に印象に残っているのは、災害時における男女共同参画の視点の重要性を訴えた、内閣府の受託事業ですね。NPO法人与行政が協働し、自治会連合会の協力も得られたことで、地域に広めることができました。

「仕事も家事も地域活動も、そして喜びも苦しみも、男女が一緒に分かち合える社会にしたい」という思いのもと、今後も活動を続けていきたいと思っています。



はまりあフェスタでの介護者向けワークショップ

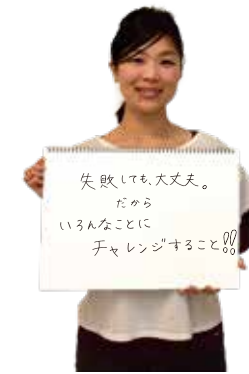


「子どもがいるから…」と諦めないで、やってみる

ヨガサークル ガレット
代表 **中村 美帆**さん



リラックスヨガ教室(さんかくカレッジ市民企画)



週末には趣味のトライアスロンを楽しんでいた会社員時代。学生の頃から続けていたヨガが、仕事や趣味で疲れた心と体を癒してくれました。産後、子連れで参加できるヨガ教室が少ないことに気づき、「それなら自分で作ろう」と、近所の集会所や児童館でヨガを開催。その後、年齢問わず誰でも参加でき、赤ちゃん連れもOKのヨガ教室を始めました。元々不器用で、失敗も多いです。しかし、仕事でも育児でも、失敗するからこそ前に進む道が開けたり新たな発見があったりすると思っています。

料理やお菓子作りが好きで、育児の合間に地域の先輩たちから教えてもらうこともあってありがたいです。自分自身が楽しんで過ごすことで、育児や仕事にもゆとりを持って取り組めると思います。今後は子連れOKの地産地消おやつ教室なども企画中です。おいしい地元食材に触れ、親も子も食に関心を持ってもらえたら、そして運動や食を通して少しでも心にゆとりを持つきっかけを提供できたらうれしいです。



子どもと接せられる期間は短い。楽しまなければもったいない

パパスマイル四日市
代表 **宮崎 秀樹**さん



父親の子育てマスター養成講座



9年前、初めは軽い気持ちで「父親の子育てマスター養成講座」を受講しました。それまでは「自分は子育てをやっている」と自負していましたが、実は違ったのだと気づき、衝撃を受けました。受講後は、パートナーとのコミュニケーションをより深くとるようになり、うまくフォローし合えるようになりました。また、父親同士で子どもの話をするようになり、子育てにおいて正解へのアプローチは一つではないということも仲間から学ぶことができました。そして、子育てを通じて地域や人と関わることで、自分の世界も広がりました。

「パパスマイル四日市」は養成講座修了生の有志のグループで、養成講座やよかパパフェスティバルを手伝ったり、イベントに呼ばれて親子向けの企画を催したりしています。活動を通じて、「子育てを楽しまなきゃ」という思いを伝えていきたいと思っています。



平成30年度四日市市「男女がいいきと働き続けられる企業」表彰で奨励賞を受賞



株式会社東産業
取締役 **秋田 貴彦**さん

3年間の育児休業期間や期限のない短時間勤務制度など、法律の規定以上の基準を設け、職場に復帰しやすい環境整備に取り組んでいます。また、社員の健康を重要視しており、健康診断なども手厚くしています。さらに、時間管理を徹底し、業務量の偏りをなくして時間外労働の削減にも成果を上げました。社員が「ここで働いてよかった」と誇りに思い、仕事を長く続けられる会社であるよう、今後も新たな取り組みを進めていきたいと考えています。

有害物質を取り扱う作業では通常時でも安全に配慮していますが、妊婦・産婦から申し出があったときは作業の変更を行うなど、女性従業員が働きやすい環境を整えています。また、残業課題シートから残業の根本的な原因を究明し、5年前に独自の工程管理スケジューラーを完成させました。その日必要な業務や月間の繁忙期が見えることにより、残業削減や有休取得が促進されるとともに、業務上の課題や特定の人しかできない業務の見える化にもつながっていると感じています。

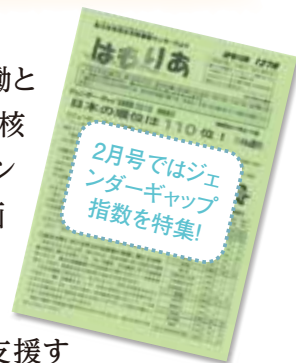


株式会社東海テクノ
総務部 部長 **市田 明**さん

はもりあ四日市って どんなところ？



「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働というすてきな“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。男女共同参画センター「はもりあ四日市」では、男女共同参画社会を実現するため、各種施策を総合的・計画的に実施しています。また、市・市民・事業者による男女共同参画の取り組みを支援する拠点として、事業を展開しています。



男女共同参画に関するホットな話題をお届けする情報紙「はもりあ」を毎月発行しているので、ぜひ地区市民センターやホームページ(HP) <http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>などでチェックしてみてくださいね。



▲さんかくカレッジ2017
男性向け料理教室



▲ワーク・ライフ・バランス
シンポジウム



▲子育て世代のための
マネー講座

はもりあ四日市



所在地
本町プラザ3階(本町9-8)

開館時間
9:00～21:00

休館日
日・月曜日、祝日、年末年始

「男女共同参画 プランよっかいち 2015～2020」 を見直しました



男女が性別にとらわれることなく、自分の力を発揮して多様な働き方や生き方を選択できる男女共同参画社会を実現するために、市として施策を総合的かつ計画的に進めていくための基本計画。平成30年12月に、「《男女共同参画プランよっかいち2015～2020》後期 平成30(2018)年度～平成32(2020)年度」を新たに作成しました。

→詳しくは、市ホームページ(HP)ID 1001000000884)へ

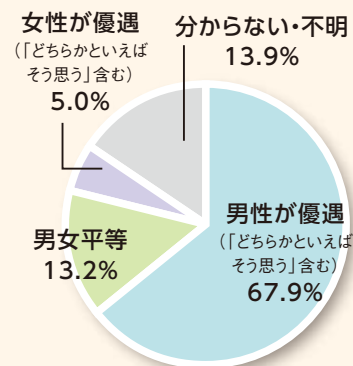
見直しのポイント

- 1 プラン推進に当たっての重要な視点を見直し、「**職業生活における女性の活躍推進**」を追加
- 2 「**女性の職業生活における活躍の推進に関する法律**」(平成27年8月成立)に基づく市町村推進計画として位置付け
- 3 今後、充実・強化を進める項目を以下に変更
 - (1) 情報発信の強化
 - (2) 地域における男女共同参画の推進
 - (3) ワーク・ライフ・バランスの推進
 - (4) 四日市市役所における女性活躍とワーク・ライフ・バランスの推進
 - (5) DV 予防教育及び相談体制の充実
 - (6) 女性のエンパワーメント



市民意識調査から見える四日市市の現状

男女の平等感について (社会全体)



※四日市市男女共同参画に関する市民意識調査(平成29年8月実施)より

社会全体で男女平等と感じている人は、13.2%にとどまっており、前回調査よりも下がっています。分野別で見ると、特に「社会通念・慣習しきたりで」「政治の場で」「職場で」などの分野で男性優遇と感じる人が多いことが分かりました。

<その他の項目から見える現状>

- 本人が希望する就業形態(正職員、非正職員、主婦・主夫)と現状の差は、女性の方が大きい
- ワーク・ライフ・バランスを実現できている人は、男女とも約3割にとどまっている
- 女性が役職(自治会・PTAの代表、職場の管理職など)に就くことへの抵抗感は、男性より女性自身の方が強い など

→ 調査結果をプランに反映

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は

男女共同参画課 ☎ 354-8331 FAX 354-8339
広報マーケティング課 ☎ 354-8244 FAX 354-8315